滝高フロンティアサイエンス通信

海外研修特集号［平成２８年８月１８日～２５日］　第９号

マレーシアレポート
3日目（8月20日）

3日目、私たちは「ロッカウイ動物園」とクリアス半島での「リバークルーズ」を体験した。

◇ロッカウイ動物園

熱帯の希少動物の生息環境調査ということで、ロッカウイ動物園で研修を行った。この動物園では、7月にマレーシアでの最後の一頭であるスマトラサイがなくなってしまったという。100種類以上の動物が飼育されており、その中で日本でも見られる動物もいたが、初めて見る動物も少なくなかった。

この動物園の施設内では、面白い場所が2つあった。まず一つ目が、触れ合える場所というわけではないが、動物と区別される境目がない、かなり近距離で動物を見ることができる場所だ。その施設内では動物たちが自由に生活していて、主に鳥が飛び交っているので、自然での動物の生態を見て感じることができる。

二つ目が、動物園内の動物と一緒に芸をするという場所。鳥による芸や、俳優たちによる、蛇が出てくる劇などを楽しんだ。全体としては、実際に動物を目にしながら説明を聞くことができたので、事前学習と合わせることにより、より理解が深まった。

↑ロッカウイ動物園

◇リバークルーズ

私たちはロッカウイ動物園を後にし、次にクリアス半島へ、リバークルーズをするために向かった。リバークルーズとは、「川で船舶での旅を楽しむこと」。

今回は2回リバークルーズを体験することができた。まず1回目は、マングローブ林に生活する、野生のテングザルを見るという内容だった。最初は全然見当たらなく、見ることができるか不安でしたが、後半の方になると何匹も確認することができた。また、オオトカゲや、ワニの生息も確認できた。

2回目は夕食を挟んで暗くなってから、た。暗くなると雰囲気自体も一回目と変わり新鮮なものだった。

私はこの研修で、人生で初めてホタルを見たのだが、率直に「きれい」だと感じた。季節は真逆だが、木にとまるホタルによる光が、クリスマスのイルミネーションみたいだと感じた。

残念ながらホタルは光や音に驚いてしまうため写真を撮ることはできなかったが、とてもきれいな光景だったので、ずっと記憶に残る体験になったと思う。

（文責　1F 中野）